

二〇一一年クリスマス夜のこと。避難先で新しくできた友達とクリスマス会をした後、なかなか寝つけない長男が突然「お父さんとお母さんがいなくてさみしかった」と言いだしました。パーティーは友達がたくさんいたし、私たちも一緒にしました。「お父さんもお母さんもいたよね、楽しかったね」と答えると、長男は「ううん、ツナギ(津波)のとき…」と。

震災から九カ月後の必死の声でした。それまで震災のことを何も言わなかったのは、表現できなかったのだと痛感しました。親は「普通の生活」

東北復興日記

54



よつばファーム
熱海和美さん

人が行き交う農業目指す

を取り戻すために必死で
したが、自分の気持ち
言葉で吐き出せる大人と
違い、子どもの心中はど
れだけ混乱し、不安でい
っぱいだったのでしょうか
か。思わず抱きしめ、もっ

大丈夫だよ、と言っこと
しかできませんでした。
宮城県東松島市牛網地
区は津波で流失するなど
ました。と同時に、自分た
だ古民家も解体せずにい
ちが進む方向はやはり農
業しかないと思い、昨年
秋に夫婦で株式会社よつ
ばファームを立ち上げま
した。作物の生産だけで
なく耕作放棄地の活用、
古民家で直売の計画など
地域全体に「人が行き交
う」農業を目指して取り
組んでいます。写真。

いたからか先祖代々の土
地への執着が強く、傷ん
だ古民家も解体せずにい
ちが進む方向はやはり農
業しかないと思い、昨年
秋に夫婦で株式会社よつ
ばファームを立ち上げま
した。作物の生産だけで
なく耕作放棄地の活用、
古民家で直売の計画など
地域全体に「人が行き交
う」農業を目指して取り
組んでいます。写真。

味で震災を忘れ、安心し
て暮らせる環境をつくる
ことです。そのために私
たちが用いたツールが農
業だったのです。
多くの命を奪った海
は、私たちを支える命の
源でもあります。今の全
てが有限であるというこ
とを震災から学び、当
り前なこと一つ一つに感
謝しながら、自然の恵み
を詰め込んだ美味しい作
物を作り続けていきたい
と思っています。

この連載は、東京の
NPO法人「女子教育
奨励会」と、被災地の
女性たちが協力して復
興に取り組む「結結プ
ロジェクト」の協力を
得て、掲載しています。